黒埼町の人物

第221回　執筆　宮田栄門

黒埼のスポーツ（十五）

大野町々内対抗野球大会は、太洋クラブの主力選手を有する二ノ丁が毎回優勝した。

（先月号からの続き）

お呼びかけをいただき二つ返事でお受けし、早速ユニホームをお借りして練習に加わりました。浅妻さんが監督で投手富岡、捕手宗村、一塁大坂（久）、二塁二階堂、三塁鈴木、遊撃宗村久、外野大坂（昭）、鈴木、宗村、細田、浅妻と意氣盛んなメンバーだったと思います。

小学校のグラウンドは中ノ口川側にスタンド、南すみに斉藤家、その側が田んぼで、稲架木（はさ木）が五、六本、西側に校舎と、野球には少々狭かったのですが、当時唯一の場所でありました。

地元で開いた近郷野球大会で強豪を下し、池田写真館の若に出張してもらい記念として残していただきました。（5月号に掲載）

昭和二十四年には、郡大会で坂井輪中学校のグラウンドや、燕町の信濃川河川敷で試合をしました。遠征の時には箱田屋旅館の箱田健吾さん（元新潟商業のピッチャー）も加わり、本格派投手により大勝を続け、太洋クラブの面目躍如たるものがありました。

太洋クラブのことは名前だけで、由来については知りませんでした。ただお借りしたユニホームや用具の準備から考えると前々から引継がれたのではなかろうかと思います。

町には太陽食堂があり、御主人も息子さんも野球には関係され応援されておりました。

平成12年4月、記

昭和二十三年、大野校に赴任して来られた二階堂先生は、それから二十六年三月新潟県教育委員会へ転勤になるまでの約三年間、大野二ノ丁の浅妻康二さん宅の裏手に居住して居られた。

戦後間もない昭和二十三年、町は復員者や学徒動員や軍需工場などから帰郷した若者達であふれ、それらが、あり余るエネルギーを相撲、柔道、野球、陸上競技で発散しようと、熱心に取組んでいた。

かって昭和初期の戦前に始まり、一時期は隆盛を極めた太洋クラブも、うち続く戦争の激化によって、敗戦の頃には全く衰退していた。

そんな中、「俺達は野球をやろう」と、元太洋クラブの人達が集まり、先輩浅妻康二さんを監督に太洋クラブの復活をみたのである。今から五十年も前のことであり、正確なメンバーはわからないが、宗村さん兄弟に、大坂（久）、大坂（昭）、鈴木（昭）、鈴木（七）、鈴木（栄）、宗村（多）、鈴木（義）、横木（栄）、細田（博）、浅妻（康）と、他にも若手の人達、多士済々だったようである。

野球が盛んになると、それまでなかった大野町の町内対抗野球大会が行われるようになった。今まで野球をしたことのない各町内の若者が野球を覚えようと、馴れない手にグローブをはめ、今まで持ったこともないバットを振り廻し、大会は珍プレーで賑わった。

丁内は小さいが、太洋クラブの主力選手の多くいる二ノ丁野球部が毎回のように優勝していたようである。

当時二ノ丁に居られた二階堂先生がスポーツ万能の人で、野球もうまいということを知っていた浅妻康二さんは、二階堂先生から二ノ丁の選手として大野町々内対抗野球大会に出てもらったり、坂井輪中学校のグランドでの郡大会や、燕の信濃川河川敷球場での近郷野球大会等にも、太洋クラブとして出てもらい、これらの遠征試合はたいてい上位入賞をしているという。

二階堂正吉さん

また、先生は昔、七区にあった箱田屋旅館の箱田健吾さん（元新潟商業のピッチャー）がよく太洋クラブの遠征試合に参加して、本格派投手としての底力を見せていたと記されているが、同じ七区にあった月の湯の人で、新潟県庁のピッチャーをしていた、長谷川慶作さんも太洋クラブに大きく貢献した人と聞いている。

八区に太陽食堂が今もあるが、そこの御主人と息子さんが野球好きで、親子ぐるみで太洋クラブの応援をされていたと記されているが、親父さんの名は戸枝吾一さんで、息子さんとあるのは弟の八百蔵さんと思われる。吾一さんも八百蔵さんもすでに亡くなられたが、吾一さんは、戦後間もなく始まったゲートボールで、黒埼から県代表となって全国大会に出場した記念写真のメンバーの中に写っている。

また八百蔵さんは筆者の若い頃、よく町内対抗野球大会などに出ていられるのを見た覚えがある。

二階堂先生が、筆者の若い頃から黒埼のスポーツと深いかかわりをもつ人と記憶している筆者は、新潟市合併により黒埼の名が消えようとしている今日、無理にお願いして町のスポーツについての思い出を書いていただいた。

すでに亡くなって久しい、バスケットボールの宗村栄助さん（元教育長）や、七区で今も元氣な、バスケットボール、陸上フェールド競技の箱田康雄さん達が活躍した若い頃のこと。

「通勤電車の中で若い青年に声をかけられた。それが箱田、宗村君とわかり旧交を温め町の体育関係の方々を紹介してもらいました…。そして先生が大野小に赴任すると、待ち構いていた青年達が夜、バスケットボールチーム結成の相談に来た…。」と、若者達との出合い。

戦後間もない昭和二十四年のはじめ頃、二ノ丁富岡美和さん（旧姓箱田）は子供の頃からスポーツが大好きで、兄の康雄さんが練習している大野小学校によく遊び来て走ったりしていた。

そのうちに、二十四年のはじめ頃、六十米コースを走り記録をとってもらったら八秒五の好タイムだった。それが二階堂先生や、当時の関係者を驚かせた。早速二階堂先生の特訓がはじまり、彼女も真剣にその指導をうけめきめきと実力をつけた。二十四年にはすでに村内の記録を更新し、黒埼の箱田とその名が広く知れ渡った。翌二十五年に新人として郡大会に出場して優勝、続いて県大会を制覇。同年九月二十四日四国高知県の全国東口杯陸上競技大会に出場。

（続く）

平成十二年九月発行　四四四号　発行／黒埼町役場　〒九五〇－一一九六　新潟県西蒲原郡黒埼町大野二八四三－一　電話／〇二五・三七七－三一〇一　編集／総務課（担当・総務係）

「広報くろさき」は資源保護のため再生紙を使用しています。